

3/25

内達二号改悪・運転適性検査導入を許さず

本部乗務員分科会

本部乗務員分科会・第二回常任委員会が、本部関川委員長、布施交渉部長、鶴岡交渉委員、の出席を得て、三月二十五日動力車会館に於いて、全支部乗務員会長が出席して開催されました。

委員長は座長に、本部乗務員分科会高橋執行委員を選出し始められました。

冒頭、関川委員長より、「政府・支配階級は、中曽根を先頭とした、軍事大国化路線を打ち出し、労働運動破壊、春闘分断攻撃をかけてきている。そして、三里塚における『一坪再共有化』による反対同盟分断攻撃は、絶対許すことはできない。中江・北原選挙の必勝をかちとり、乗務員運用合理化を粉碎して、動労千葉乗務員分科会健在を全国に示そう」とあいさつしました。

つづいて布施交渉部長より「労働条件をかちとるためには、現場生産点の組合員一人一人の力と団結力が大きく反映されるので、十分踏まえて毎日毎日を闘つてもらいたい」と激励のあいさつがありました。

当面する取り組み

執行部より、当面する取り組みについて次のとおり提案をうけました。

・「内達改正」に対する取り組み

国鉄当局は、第二臨調を強い味方がついたと云わんばかりに、次から次へと要員合理化を進めてきています。運転職場の最大合理化攻撃である、乗務員運用合理化を行うために、昨年一月二十一日、内達一号「改正」を提案してきました。これは大巾な既得権剥奪と運用効率アップを目的としたものであります。

本部乗務員分科会は、一〇数回にわたり内達専門委員会を開催し、職場討議資料を各支部に配布して討議を深め、二月二十三日に内達対策委員会を発足させました。われわれは、当局の攻撃の本質を正しく見抜き、対処していくこととします。

・運転適性検査について

当局は、かつてのマル生時、昭和四十六年頃にも名目は違いますが内容的には同じものを提案してきました。内容的にも職員管理の一環であることは明らかであり、われわれの生活権を奪う運転適性検査は認めるわけにはいきません。

・CTC、RC 運転通告券について

CTC、RCの規程「改正」を提案してきています。

これは、駅民託化・無人化の要員合理化攻撃の強行により、現行規程では安全確保ができない現状となつてきているために、運転保安を無視した現行「改正」を提案してきているのであり、分科会は矛盾点を指摘して当局を追及していきます。

・基本給調整額、定数の張り付けについて
各支部乗務員分科会長より、基本給調整額、定数の張り付けの実態について報告をうけました。

―活発な討論で方針を決定―

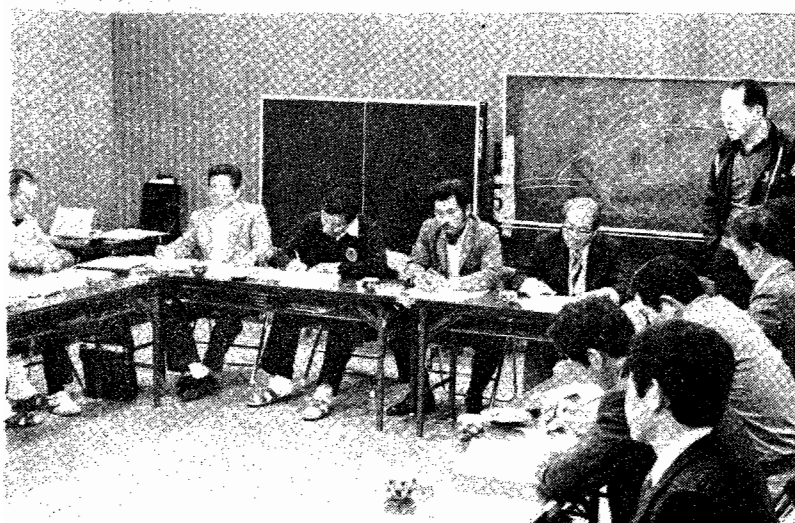
こうした提案に踏まえ、次のような意見が出され、討論を深めました。

① 内達改悪について、専門委員会です十分な研究討議し対処してもらいたい。

② 基本給調整額、定数について十分な職場討議を行い、分科会としての一定の方針を打ち出していくべきである。

③ CTC、RC運転通告券について、別紙内容を各支部分科会へ、集会またはオルグなどにより、職場で討議してゆくべきだ。

委員会は、活発な討論の後、方針・暫定予算を含め満場一致で確認・決定し、成功裏に終了しました。



熱心な討論を行なう乗務員分科会常任委員

(3月25日...動力車会館)